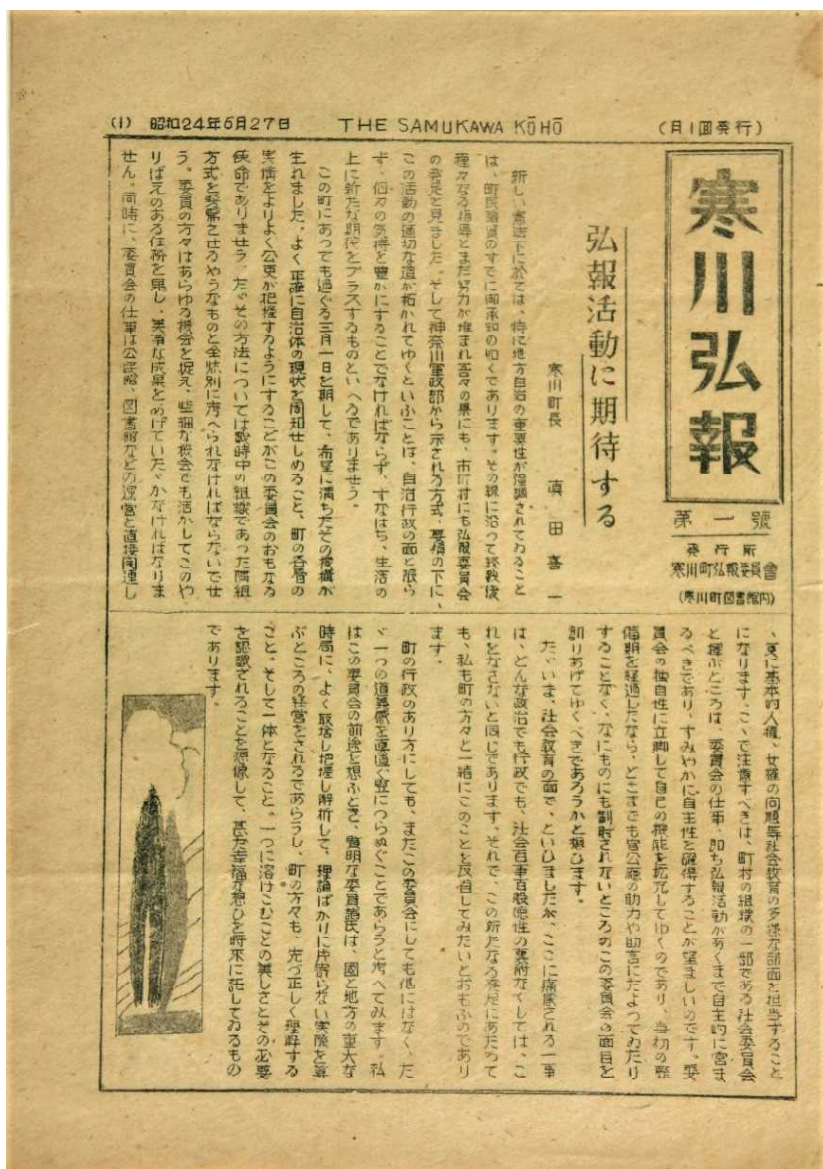


# 寒川文書館だより

Vol. 26



■ 第26号目次 ■

『寒川弘報』創刊号 (真田歌子氏所蔵)

資料紹介『寒川弘報』創刊号	2
企画展「広報さむかわの70年」	3
皆川邦直家文書が寄贈／寒川高校インターンシップ	4
文書館運営審議委員を委嘱／審議会委員を務めて	5
古文書講座／総合計画ワークショップ／全史料協会長事務局	6
文書館の最近のできごと	7

第26号  
2019.9.30  
寒川文書館

## 『寒川弘報』創刊号

(真田耿子氏所蔵)

表紙の資料は、現在の『広報さむかわ』の前身で、今から70年前の昭和24年(1949)6月27日に創刊された『寒川弘報』である。サイズは B5判、全4面、謄写版印刷のわら半紙の広報紙であった。

この広報紙は、町民で組織された寒川町弘報委員会により発行された。現在に続く自治体の広報紙は、GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)による民主化政策の一環として全国に広まったとされ、その編集や発行には、各自治体に設置された弘報委員会が関わっている。

昭和23年(1948)12月21日、県下を管轄する神奈川県軍政部の指導により、神奈川県は地方行政の民主化のため、県下の市区町村に弘報委員会の設置を指示した(『神奈川新聞』昭和23年12月23日)。これに応じて、寒川町は昭和24年3月1日に寒川町弘報委員会を発足させ、同年6月に同委員会が『寒川弘報』を創刊する。

初代弘報委員長で町会議員だった青木正治は、昭和24年に神奈川県軍政部民間弘報課のマーガレット・C・ヘンセルらが来町して広報紙を出すことになったと回想している(『広報さむかわ』300号 昭和60年1月)。同課は県内の同委員会の活動状況を現地調査しているが、ヘンセルは、同年5月20日に町立図書館開館式臨席のため来町している(「寒川町図書館月報」昭和24年6月、真田耿子氏所蔵)。この時、広報紙発行の話があったのであろうか。

昭和24年3月1日施行の「寒川町弘報委員会規約」(真田耿子氏所蔵)によると、同委員会は、町内の各種団体と一般町民より選出の委員で構成され、任期は1年とされた。その設置目的は「行政の民主化のために総ての行政を町民に宣伝啓蒙活動」することであった。具体的には、行政情報の周知徹底、住民の集いや講演会などの開催、住民の意見・希望の受理と関係機関への伝達などで、その他自治

振興のため必要な事業を行うことであった。こうした事業の一環として広報紙が発行された。

創刊号の内容を見ていく。1面には、真田喜一町長の「弘報活動に期待する」と題する文章が掲載されている。この活動は「自治行政の面に限らず、個々の気持ちを豊かにすることでなければならず、すなはち、生活の上に新たな期待をプラスするもの」とであると、文化事業に力を入れた町長らしい期待を述べている。

つづく2面には「弘報委員会とは？」と題し、同会の説明や、委員22名(男性19名、女性3名)の氏名と所属団体が掲載されている。戦前の町政への無知や無関心という悪い習慣を打破して、「自分たちのものを、自分たちの手で作るという気持ちで」と町民に町政への積極的な参加を呼びかけている。また、GHQの民主化政策の一つである「婦人の解放」を意識した人選なのか、委員を代表して山崎実子が「より明るい、より住みよい町へ」と題し、主婦・婦人の立場から抱負や決意を述べている。

3面では「図書館だより」で町立図書館開館式の様子が伝えられ、つづいて民生員と児童委員の活動、町内の生活困窮者の保護状況や、県下の浮浪者数など厚生事業について掲載されている。4面では、竣工したばかりの寒川中学校と寒川警察署、町長が推進する農村文化講座、青年学級、設立間近の防犯協会と婦人会、校長交代の記事など、町内の情報が掲載されている。

この創刊号はわずか4面であるが、占領下の寒川町を知る貴重な資料である。創刊号は当館や個人で所蔵されているものの他に、GHQへ検閲のために提出されたものが、「プランゲ文庫」(米国・メリーランド大学図書館)に収蔵されている。

(鳥養圭美)

## 茅ヶ崎市・寒川町広域連携事業

毎年、茅ヶ崎市・寒川町広域連携事業の「歴史・文化財等普及事業」の一環として両市町に共通の歴史的素材をテーマに展示を開催しています。

5回目となる今回のテーマは「広報」とし、広報から昭和・平成の世相や人々のくらしの変化を振り返りました。

会 期：令和元年6月29日(土)～8月31日(土) 講演会：令和元年8月3日(土)

\* この事業は(公財)神奈川県市町村振興協会の市町村広域行政助成事業の助成を受けて実施しました。

## 寒川文書館第29回企画展「広報さむかわの70年」

『広報さむかわ』は、昭和24年(1949)6月に創刊した『寒川弘報』にはじまり、今年の6月で70周年をむかえました。

広報が今日のような形になるまでには、どのような歩みを積み重ねてきたのかを、広報の紙面や写真などを用い、いろいろな角度からご紹介しました。

### <展示構成>

はじめに

#### I 「寒川弘報」の誕生

弘報委員会 創刊当初の紙面  
世論調査

#### II 紙面の移り変わり

体裁の変遷 題字の変遷

#### III 記事のいろいろ

連載記事 読者の参加

#### IV さまざまな広報活動

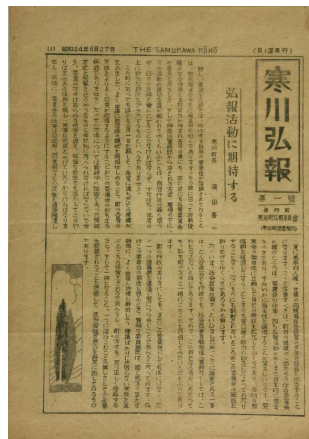
印刷物 メディア

#### V 新しい時代の広報

広報誌リニューアル  
SNSでつながる広報  
Instagram「#さむかわいい」

#### VI 町ブランド「高座」のころ。

ブランディングの経緯  
ブランドコンセプト  
これまでの歩み



『寒川弘報』創刊号  
(昭和24年)



リニューアルした最新号  
(令和元年)



ケーブルテレビ広報番組  
「輝けさむかわ」



◀展示風景

 ツイッター  
QRコード  
@samukawa\_town

 フェイスブック  
QRコード  
@samukawa.town

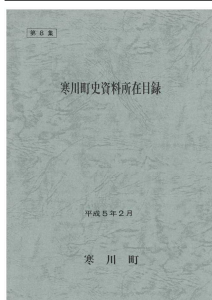
 インスタグラム  
QRコード  
samukawa\_official

**SNSを活用した広報活動**

## 皆川邦直家文書が寄贈

皆川邦直家文書が寄贈になりました。この文書群は皆川家に伝来したもので、その点数は約5,800点(江戸時代から昭和期まで)にのぼります。

皆川家は、江戸時代は宮山村名主、明治初期には戸長を務め、寒川小学校初代校長皆川寛も輩出しています。皆川弘毅は病院経営を始め、戦後は町の公安委員長にもなりました。同家の広範な活動により、文書群の内容は、名主および戸長役場文書、病院関係資料、公安委員会文書と多岐にわたります。いずれも寒川の歴史を現在に伝える貴重な記録です。



『寒川町史資料所在目録』第8集  
昭和20年以前の資料2,632点の  
目録を掲載  
1993年刊 B5版 182頁 1,000円



『寒川町史調査報告書』16  
自治体警察に関する資料を選定し、  
全文を翻刻掲載  
2008年刊 B5版 156頁 500円

(下図) 相模川附村々麓絵図面 文政7年(1824) 文政5・6年に発生した大洪水後の工事箇所などが記された絵図



## 寒川高校インターンシップ

8月1日(木)・2日(金)の2日間にわたり、県立寒川高校の生徒3名をインターンシップとして受け入れました。当館の業務を紹介し、その一端を体験してもらいました。その生徒3名から、以下の感想文を寄せていただきました。

文書館は今まであまり利用したことがなく、どのような仕事をしているのか知らなかったもので、インターンシップの2日間で少しだけかもしれないけど、知ることができてよかったです。「今」の寒川を未来へ伝えることの大切さがありました。

寒川文書館で2日間体験を行い、今までに体験しなかったことをすることができました。「文書館」と言われてどんな場所かもわからなかったもので、いざ来てみると、今までの社会が詰まった大切な場所だと知りました。

文書館の仕事の流れを最初に軽く聞いて、レファレンスや、収集(移管・寄贈など)、講演会など、接客が多いのかな?と想像していたけど、広報さむかわの見出入力をやってとても事務っぽいことがあったり、段ボールを切ったり、本を運んだりもして、色々なことをする仕事だとわかった。とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

# 文書館運営審議委員を委嘱

令和元年7月31日(水)、寒川町役場議会棟第1会議室において、寒川文書館運営審議会委員委嘱式および第1回審議会が開催されました。

この審議会は、より良い文書館運営を行うために設けられた諮問機関です。下記掲載の名簿のとおり町民や専門家により構成されています。当日は木村俊雄町長より委嘱状の交付がなされました。次いで正副会長の互選に移り、会長に小川千代子氏、副会長に内海孝氏が選出されました。会議では、平成30年度事業結果報告と令和元年度事業計画の審議が行われ、いずれも了承されました。

## 寒川文書館運営審議会委員名簿

選出区分	氏名	備考
町立小中学校長	金子 吉則	寒川小学校校長
寒川町史編集委員会委員	内海 孝	東京外国語大学名誉教授
学識経験を有する者	小川千代子	国際資料研究所
ボランティア又は資料所蔵者	佐原 慧	寒川神社方徳資料館
公募による町民	橋本 壽之	
	木場 陽子	

敬称略、任期：令和元年6月29日～令和3年6月28日



委嘱式の様子

## 審議会委員を務めて

文書館運営審議会の公募委員を2期(平成27年6月29日～令和元年6月28日)務めていただいた西山悦子氏が、任期満了にともない退任されました。退任にあたり、手記を寄せて下さいましたので、下記に全文を掲載いたします。

年に2回、文書館運営審議会が開かれます。年度毎の事業結果報告、及び事業計画など用意された資料に基づき審議されます。一つずつ細かく丁寧に、一言一句に至るまで注意を払い検討、納得できない事項があれば、時には町に要望書を提出することもあります。

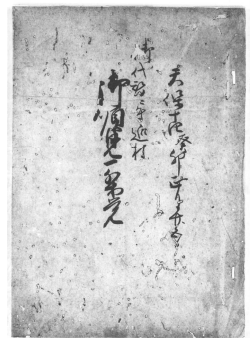
この「審議」が町民の大切な公文書、史料を守り、活用し、次へ継いでいくための基の一つと考えます。「審議」の真の意味を体感できたことは委員を経験して得た「宝」です。

西山悦子

## 古文書講座「代替わりの史料を読む」

2019年5月1日に平成から令和へと元号が変わりました。この改元にちなみ、第13回古文書講座は「代替わり」をテーマとしました。

全6回からなる同講座は、天保から弘化への改元、將軍の代替わり、旗本の代替わり、農民の代替わり①②、寺院の代替わりという内容で構成しました。



御代替に付巡村御順見一条覚

皆川邦直家文書(当館蔵)

※過去に開催した古文書講座のテキストは、閲覧書架に配架しております。

## 総合計画ワークショップに出講

総合計画とは、まちづくりの指針をまとめた計画書です。町は次期総合計画を策定するにあたり、町民の想いを集めるためのワークショップを開催しました。そのうちの1回に文書館職員が出講しました。その回は「寒川町の歴史と現状を理解したうえで、未来の寒川を想像する」ことを目的に据えていました。そこで「寒川を知る」と題し、町の歴史を紹介しました。



## 全史料協会会長事務局

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会は、会員相互の連携をはかり、歴史資料の保存利用活動の振興に寄与することを目的とした全国組織です。機関会員137、個人会員294で構成されています(令和元年9月末日時点)。

この4月より2年間、同協議会の会長事務局を寒川文書館が務めることとなりました。



令和元年度総会(6月5日(水) 於、学習院大学)

## 文書館 最近のできごと

### ■エキヒュームによる燻蒸 6月10日(月)～6月14日(金)



燻蒸は虫やカビから資料をを防ぐための処置で、専門業者に委託して例年実施しています。作業は、収蔵庫内にビニールテントを張り、その中に資料と薬剤を入れて行いました。

蔵書点検は、開架書架や収蔵庫内にある行政刊行物等の紛失やデータの誤りなどを確認するために実施するものです。当館の蔵書にはICタグを添付しております。それを機器を用いて読み込み点検を実施しました。

### ■インターネットラジオ出演 7月18日(日)



NPO 法人湘南さむかわラジオ「Sam Sweet」が制作するラジオ番組に出演しました。当館の隣にある商工会館内に設けられたスタジオでの生放送です。和やかな雰囲気の中進められた放送では、寒川文書館の概要や、開催中だった企画展「広報さむかわの70年」の内容、関連事業の告知など、たっぷりPRすることができました。

### ■体験ツアー 7月26日(金)・8月23日(金)



「図書館・文書館体験ツアー」を開催。利用者が普段は立ち入ることができない図書館と文書館のバックヤードを見学してもらう企画。今回は、町内の4年生5人が参加してくれました。

文書館では館の役割を説明したあと、収蔵庫等を案内しました。写真は、参加者各自が生まれた日の『神奈川新聞』を見ている様子です。そのうちの一人の誕生日は、鳩山内閣の発足日でした。

### ■広域講演会 8月3日(土)



茅ヶ崎市・寒川町広域連携事業の講演会「くらしにみる時代の変化」を茅ヶ崎市立図書館で開催しました。講師は茅ヶ崎市史編集員の加藤厚子先生。

『広報ちがさき』の記事から街並みの変遷や、人びとの生活・意識の変化を読み解き、広報誌の歴史資料としての重要性を指摘されました。

# 今後の事業予定

## 令和元年度後半の展示

### ○第26回企画展「県営住宅と岡田遺跡」

岡田の県営住宅の60年間の歴史を、公文書や写真で振り返るとともに、建て替え工事で出土した岡田遺跡の縄文土器など本物の遺物をご覧ください。

会期：令和元年10月19日(土)～12月28日(土)

場所：文書館展示コーナー

共催：寒川町文化財学習センター

### ○第26回ミニ展示「子年のできごと」

公文書や写真などの地域の記録資料をパネルにして、過去の子年の出来事をご紹介します。

会期：令和2年1月7日(火)～3月31日(火)

場所：文書館展示コーナー

## ■絵はがき集「岡田の風景」を発行

絵はがきシリーズ11「岡田の風景」を刊行しました。昭和30～50年代の岡田地区の風景を8枚組の絵はがきにしました。今では見ることが出来ない懐かしい岡田の姿を収録しております。ぜひご覧下さい。



10月1日より頒布 1組500円

# 編集後記

「寒川文書館だより」第26号をお届けします。

2019年5月1日に「平成」から「令和」へと元号が変わりました。その日本列島を自然災害が猛威をふるっています。9月に発生し千葉県を中心に大きな被害を与えた台風15号の脅威は記憶に新しいのではないのでしょうか。ここ寒川においても被害がでました。大曲の共同墓地にある地蔵堂もその一つです。暴風により地蔵堂の屋根が吹き飛び、そこに保管されていた「観音講関係資料」が水損被害にあいました。資料は地域住民の方々によって応急処置がなされた後、今後の保存を考慮し文書館に寄贈となりました。地域に残された記録資料は、その地域の成り立ちを現在の私たちに伝えてくれます。文書館は、その地域の記録資料を後世に伝えるために、今後も一層努力して参ります。

# 利用案内

## ■開館時間

午前9時～午後5時

## ■休館日

月曜日（国民の祝日にあたる場合は開館）

年末年始（12月29日～1月3日）

特別整理日（決まり次第お知らせします）

## ■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分

寒川町コミュニティバス・

神奈中・相鉄バス 海老名駅～寒川駅線

「図書館文書館前」下車 徒歩1分

※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



## 寒川文書館だより 第26号

令和元年9月30日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール [bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp](mailto:bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp)

ツイッター [https://twitter.com.samu\\_archives](https://twitter.com.samu_archives)